

第28回 えいが部「さらば青春の光」(1976年)

60年代の“怒れる若者たち”を描いた青春ドラマ。主人公の青年ジミーは、仕事や束縛を嫌い、グループの連中と遊ぶことだけが唯一の生きがいであった。しかし、彼のあこがれていたエース・フェイスさえも、現実社会の中で妥協していることを知り、ジミーは全てに絶望してしまう……。ステイングがエース役で映画デビューを果たした作品。

<スタッフ>

監督：フランク・ロッドム

脚本：デイヴ・ハンフリーズ

フランク・ロッドム

マーティン・スティールマン

ピート・タウンゼント

音楽：ザ・フー

<キャスト>

フィル・ダニエルズ

レズリー・アッシュ

トーヤ・ウィルコックス

フィリップ・デイヴィス

マーク・ウインゲット

ステイング

- ・1979年 レディオ・オン (ミュージシャン役)
- ・1979年 さらば青春の光 原題：Quardrophia (エース役)
- ・1984年 デューン/砂の惑星 (フェイド役)
- ・1985年 ブライド (フランケンシュタイン博士役)
- ・1987年 原題：Julia and Julia
- ・1988年 ストーミー・マンデー (ニューカッスルのクラブオーナー役)
- ・1989年 バロン (兵士役)
- ・1990年 - 1992年 キャプテン・プラネット (ザーム役 (初代)、テレビアニメ)
- ・1999年 ロック、ストック&トゥー・スモーキング・バレルズ (JD役)
- ・2000年 アリー my Love

(本人役、ステイングの鼻整形疑惑を揶揄した横顔アングル引き抜きを多用している)

レイ・ウィンストン

- ・コールド マウンテン(2003年)
- ・インディ・ジョーンズ/クリスタル・スカルの王国(2008年)

・ ヒューゴの不思議な発明(2011年)

※モッズとは

Mod、Mods(Modernism or sometimes Modism) は、イギリスの若い労働者の中で 1950 年代後半から 1960 年代中頃にかけて流行した音楽やファッション、それらをベースとしたライフスタイル、およびその支持者を指す。ロンドン近辺で発祥した。モッズファッションとしてよく連想されるものとして、髪を下ろした Mod Cut、細身の三つボタンのスーツ、ミリタリーパーカー、多数のミラーで装飾されたスクーターなどがある。

1951年にアメリカ軍に採用されたミリタリーパーカー(M-51)は、モッズの人々に愛用され、「モッズコート」「モッズパーカ」とも呼ぶ)として知られている。

モッズは衣服や音楽に興味を示し、彼らが好んで聴いた音楽はアメリカのレアな黒人音楽、R&B やソウル・ミュージック、ジャマイカのスカ(多くのスカのレコードを出したレコードレーベル名により、ブルービートとも呼ばれる)などであった。またイギリスのグループとしてはザ・フー、スモール・フェイス、キンクス(ただしレイ・デイヴィスはモッズを嫌っていたという説がある)、スペンサー・デイヴィス・グループなどが好まれた。ビートルズは、デビュー前は正反対のロッカーズファッションをしていたがマネージャーの指示によりモッズファッションでデビューした。

モッズは深夜営業のクラブに集まり、ダンスに興じたりその衣服を見せ合ったりした。彼らの多くはスクーターを移動の手段とした。エンジンが剥き出しのモーターサイクルではスーツが汚れてしまうためである。ランブレッタやベスパといった車種を好んで運転した。これらのスクーターは、初めはシンプルに乗られていたが、やがて多くのライトやミラーで飾り立てられていき、しまいには、すべてのボディパーツを取り払った骸骨のようなものも現れた。

モッズは当時のもう一つのライフスタイル支持者、ロッカーズと対立したとメディアに書きたてられた。しかし実際、モダニスト達はそのことに興味がなく、ブライトンやマーゲートと言った海辺の行楽地では新聞を読んだキッズ達による乱闘が発生した。彼らの対立はアンソニー・バージェスの『時計仕掛けのオレンジ』に大きな影響を与え、未来のアンチヒーロー小説として作品は誕生した。1979年の映画『さらば青春の光(Quadrophenia)』はザ・フーのアルバム『四重人格(Quadrophenia)』からそのタイトルを取り、内容は60年代のモッズ達を描いた物であった。

モッズは60年代末期から変質していくことになる、さらに髪を短くして丸坊主にし、ディープレゲエを聴くようになり、ドクターマーチンのブーツにベンチャーマンのシャツを身に着けたスキンヘッズ(スキンズ)へとなるのであった。